

(仮 訳)

プレス・リリース

2016年1月14日

バーゼル銀行監督委員会

バーゼル委によるマーケット・リスクの最低所要自己資本にかかる枠組みの改定

バーゼル銀行監督委員会（以下、バーゼル委）は、本日、上位機関である中央銀行総裁・銀行監督当局長官グループ（GHOS）が合意したとおりマーケット・リスクの最低所要自己資本の改定を公表しました。マーケット・リスクの枠組みの改定は、国際金融危機を受けたバーゼル委の国際規制基準を改革する取り組みの主要な要素です。

2007年から2008年にかけての深刻な市場ストレス環境は、トレーディング業務から生じるリスクに対する資本賦課の枠組みの脆弱性を露呈させました。バーゼル委は、2009年に、最も急を要する課題に対応するべく、バーゼルⅡのマーケット・リスクの枠組みに対する一連の改定を発表しました。トレーディング勘定の抜本的な見直しもまた、それらの改定が対応していなかった複数の枠組み上の課題に取り組むべく開始されました。

本改定の目的は、マーケット・リスクに対する標準的方式及び内部モデル方式が、信頼できる資本水準をもたらし、かつ法域間での一貫性のある規制の実施を促進することにあります。最終規則は、2013年10月及び2014年12月に公表された2つの市中協議文書と複数の定量的影響度調査を受けた変更を反映しています。

本改定の主な特徴は、次のとおりです。

- トレーディング勘定と銀行勘定の境界の改定 より明確化された境界は、銀行のリスク管理実務を尊重しつつ、規制上の銀行勘定とトレーディング勘定の間において規制裁定を行うインセンティブの低下に資することとなります。
- マーケット・リスクに対する内部モデル方式の改定 新たな手法では、監督当局が個々のトレーディング・デスクに対する内部モデルの承認を除外するという、より厳格なモデル承認プロセスを導入します。また、同方式では、主要なリスク・ファクターについて銀行間でより一貫性のある識別・資本賦課を求めるほか、ヘッジ・分散による資本賦課の低減効果に制約を課しております。
- マーケット・リスクに対する標準的方式の改定 標準的方式は、マーケット・リスクの精緻な取扱いを必要としない銀行にとっても適切な枠組みとしつつ、内部モデル方式に対する信頼できるフォールバック及びフロアとなるよう十分にリスク感応的にするべく、全面

的に見直されました。

- ストレス下における、バリュー・アット・リスクから、期待ショートフォールへのリスク計測手法の移行 期待ショートフォールの使用は、テイルリスクを堅実に捕捉し、かつ重大な市場ストレスの期間における資本充足を確保するために役立つこととなります。
- 市場流動性の低下リスクの反映 各種流動性ホライズンは、資産市場における急激かつ深刻な市場流動性の毀損リスクを低減させるべく、標準的方式及び内部モデル方式に組み込まれています。これらは、現行の枠組みにおいて、すべての取引商品に対する VaR において想定されていた一律 10 日のホライズンに代わるものとなります。

バーゼル委は、銀行から提供されたデータを使用し、本改定が 2015 年 6 月末に完全実施されたと仮定した影響度分析を実施しました。現行の枠組みでは、マーケット・リスク・アセットがリスク・アセット全体に占める割合は約 6%であるのに対して、改定後の枠組みではその割合は 10%未満となります。改定後のマーケット・リスクの総所要自己資本は、現行の枠組みと比較して、中央値では 22%（加重平均では 40%）増加すると見込まれます。なお、これらの推計値は、バーゼル委が 2015 年 12 月に承認したカリブレーションの見直しを考慮しています。

本改定は、2019 年 1 月 1 日に発効します。バーゼル委は、実施期間を通じて、自己資本比率規制の枠組みにおける全般的なカリブレーションの一貫性を確保するべく、本改定の自己資本への影響のモニタリングを継続する予定です。